

生産性向上支援訓練 利用者の声

Training to Support Productivity Improvement

セントラル硝子プロダクツ株式会社 様

所在地 三重県松阪市
従業員数 約500名(2024年10月現在)
事業内容 建築用・自動車用ガラス製造、加工、販売



■ 支援概要と利用者の声

課題と要望

既に行っている階層別教育をさらに充実させたい。
特に、業務効率化を進めていくうえで重要なDXに関するコースを活用して、社員全員のDXへの知見を深めたい。

新入社員
ものづくり企業としての基本知識教育の充実

全社員
ITスキルの向上 など

訓練後の成果

新入社員の訓練後のOJTの様子から、直接生産に携わらない部署でも、ものづくり現場の一員としての意識を持ち、品質の重要性やムダ、価値について考えるきっかけを与えることができたと感じています。



生産性向上支援訓練

受講した訓練(コース名)

- ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
- 品質管理に役立つグラフ活用
- ITツールを活用した業務改善 (オンライン)
- 製造分野におけるDX推進 (オンライン)
- 原価管理とコストダウン (オンライン)
- ビジネス現場における交渉力 (オンライン)

実施時期と総受講者数

- 令和6年6月～10月
- 総受講者数：66名

事業主の声

Q 会社概要

A 当社は、建築用・自動車用ガラス製造、加工、販売を行っています。

Q 訓練を利用した経緯・動機

A ものづくりの専門知識や技能技術を学ぶためにポリテクセンター伊勢で能力開発セミナーを受講し、その後、生産性向上支援訓練の案内を受け、社員教育の充実化を図るために利用を決めました。

Q 訓練を利用した感想

A 本年度は、社員の階層に応じた訓練を実施しました。新入社員にはものづくりのしくみ、新任係長には交渉スキル、新任管理職には原価管理とコストダウンの知識を習得するための訓練です。従来行っていた階層別教育にプラスアルファとして実施することができました。特に、DXに関するコースは多数用意されており、オンラインでの受講も可能ですので、幅広い日程や教育内容の選択肢を社員に提供できたことがよかったです。

Q 訓練を受講された感想

A 生産性向上を向上させるためのいくつかのITツールを紹介いただき、新しいツールの活用方法を理解できました。DXの活用レベルを7段階で評価することで、自分の立ち位置を知ることができ、次に目指すべきレベルが明確になりました。

受講者の声

A DXはハードルが高く感じられましたが、紙書類や印鑑の廃止など、目の前にある小さなことをデジタル化することでも、DXに向けてステップアップしていけることがわかりました。

A AI検索やIoTデバイスなど、簡単に利用できるITツールを積極的に活用し、DX取り組みへの心理的なハードルを下げ、業務に取り入れやすい環境にしていこうと思います。